

チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	27-20-1	地域資源を活かしたまちの魅力向上について	大阪府豊中市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	おとつむぎ		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻 MUSE		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	6名		
代表者（公開）	澤田青空		
メンバー（公開）	伊藤裕基 砂田奏音 西村菜々夏 船積悠雅 山岸萌		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示－非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 ○

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

世代間交流を通じて、各世代がそれぞれ抱える「孤独感」を解消する。

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

MBS（毎日放送）で放送されていた「ちんぷいぷい」という番組の人気コーナーに「ひさびさピアノ」というものがありました。これは、長い間弾かれていない思い出のピアノを募集し、思い出を聞いたのちに、そのピアノの「思い出の曲」を演奏するというものでした。我々はこのプロセスを応用し、継続的かつ豊中市の南部地域に住む人々がつながり、「孤独感」を解消できるようなプログラム『おとつむぎ』を提案します。

おとつむぎの内容は以下の通りです。

①ご自宅に使わなくなって眠っているギターや弦楽器、管楽器がある高齢者を募集する

番組ではピアノを題材にしていますが、このプログラムでは持ち運びが可能な楽器を募集します。

②学生が直接訪問し、楽器についてのエピソードや南部地域（庄内地域）のことについて話す

持ち主がどんな人か、どんなエピソードを持った楽器なのか知るために、直接お宅へ伺います。その中で、南部地域が一体どんなまちなのかを具体的に知り、人に寄り添うだけでなく、地域に寄り添っていきます。

③演奏に参加してくれる児童・生徒を募集し、練習する

豊中市の協力のもと、音大生と一緒に演奏してくれる南部地域の児童・生徒を募集します。ここで考えないといけないのが、楽器を演奏できない子どもは参加できないのか、ということです。南部地域は他の豊中市の地域に比べ、十分な教育を受けることのできない子どもが多い地域です。楽器のできる子どもの多くは、習い事としてピアノを習っているケースが多く、ある程度生活にゆとりのある環境でないと習うことができないのが現状です。そこで、おとつむぎでは歌や比較的簡単な打楽器、場合によっては鍵盤楽器やギター、管楽器にもチャレンジできるような環境を我々音大生が創ります。練習場所として、大阪音楽大学の一室を使用します。

④その楽器を使い、大阪音楽大学生と募集した子どもたちと一緒に演奏会をつくる

演奏会というと、コンサートホールをイメージしがちですがおとつむぎでは公園が会場となります。公園を利用することで、子どもから高齢者まで幅広い層の人々が自由に訪れ、その場でつながりを生み出すことが可能です。演奏は、使われていない楽器を使用し、思い出の楽曲を音大生と募集した子どもたちと演奏します。

⑤お礼は楽器の持ち主の方がつくったご飯

通常のコンサートはお金が引き換え、もしくは無料となりますが、おとつむぎの場合はご飯が引き換えとなります。「同じ釜の飯を食う」という言葉がありますが、ご飯と一緒に食べるという時間は親しい中でないとできないものであり、尊いも

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

のです。普段一人でご飯を食べている子どもや大学生にとっては、「第二の家族」のもとで食べるご飯となり得ます。また高齢者にとっても、誰かのために作るご飯は力の入り方が違います。「誰かのために」こそが、社会とのつながりを生むのだと考えます。

【公園のメディア化】

①～⑤のプログラムを実行するにあたって重要になるのが、「公園」です。公園は不特定多数の人々が訪れるパブリックな空間であり、様々な情報の受け渡しが可能です。我々はこの点に着目し、おとつむぎの実行を通して公園を南部地域の音楽・情報発信の場にしていきます。新たにウェブサイトを作らなくとも、公園が情報を必要としている人にダイレクトに届くような媒体になるのではないのでしょうか。

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

【世代別に抱える孤独】

ミュージックコミュニケーション専攻では、これまでに「オープンマイクイベント」や、「こども食堂」など様々なプロジェクトを通して、音楽で南部地域（庄内地域）と関わってきました。その中で感じるのは、各世代によって「孤独」が異なるということです。例えば、南部地域に多い高齢者の場合は、社会とのつながりの薄さからくる孤独。また子どもの場合は、ひとり親世帯や共働き世帯の増加による「孤独」を感じています。さらに我々大学生は、下宿による「孤独」を感じています。さて、これらに共通するのは「つながる」ということです。私たちはこのキーワードをもとに、老若男女誰もが親しみやすい音楽というコンテンツを用いて、南部地域に世代間を超えたつながりの輪を広げる仕組みづくりを提案しようと考えました。

【子どもの教育環境の多様化】

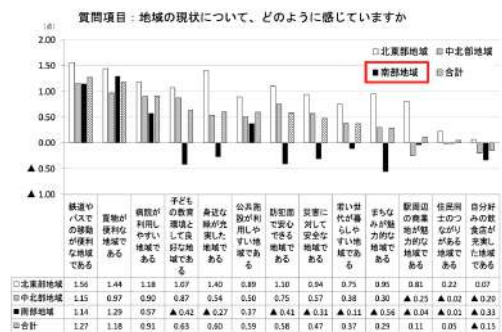
子どもの成長過程において、出会いは重要です。出会いは新たな見方、考え方、価値観を与え、それは今後生きていく中で力となります。しかし、南部地域は人口減少、及び少子化に伴い、児童・生徒数が減少傾向にあり、平成 25 年と令和 3 年の庄内児童・生徒数合計を比較すると、679 人も減少しています。これを学校ごとに換算すると、8 年でおよそ 2 クラス分の児童・生徒が減少していることとなります。これでは、新たな出会いが失われてしまいます。そこで必要となるのが、学校外での人との出会いだと考えます。



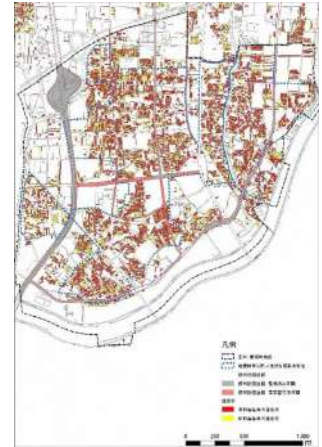
平成 25 年度（2013 年度）以降の豊中市及び庄内地域における児童・生徒数の推移
資料：庄内地域における「魅力ある学校」づくり計画 資料編（平成 29 年（2017 年）8 月）（豊中市）

【街の安全性】

南部地域は「豊中市の若者の意識と行動に関するアンケート調査」によると、「防犯面」において▲0.41、「防災面」において▲0.31 と、他の地域に比べ点数が低いのが特徴です。また、その一つの要因とされるのが「旧耐震基準の木造建築物」の多さであり、地域全域にわたって数多く存在しています。ただ、これらの建築を速やかに建て替えることは、不可能なのが現実です。そこで必要となるのが、いざというときの人と人とのつながりであると考えます。



資料：南部地域の活性化に向けた調査研究Ⅰ（とよなか都市創造研究所）
「豊中市の若者の意識と行動に関するアンケート調査」



【積極的な公園の利用】

公園は老若男女誰もが利用できる公共スペースです。ミュージックコミュニケーション専攻でも本年度から豊中市の協力を得て、大学からほど近い野田中央公園にて「オープンマイクパーク@庄内」を継続的に行いました。誰もが自由に訪れることのできる公園を利用することで、世代間交流が生まれ、地域に住む人を知るきっかけづくりになると考えます。また、コロナ禍において外の空間は、心に開放感をもたらします。公園は閉塞的な生活に、風を通す場となり得ると考えます。



【新たな価値観を持った音楽人の育成】

豊中市には大阪音楽大学及び大阪音楽大学短期大学部があります。音大生は地域の子どもたちに演奏技術を教えることによって指導方法を学ぶことができ、高齢者から街の知識を得ることで地域に根付いた音楽の在り方を模索することができます。高齢者は新たに社会とのつながりができるとともに、演奏を聞くことによって若者のエネルギーを受け取ることができます。児童・生徒は楽器演奏を通して表現する力を身につけることができます。

演奏会、言葉や音楽によるコミュニケーションを通して三者三様の新たな価値観を見出すことができると考えます。

--

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

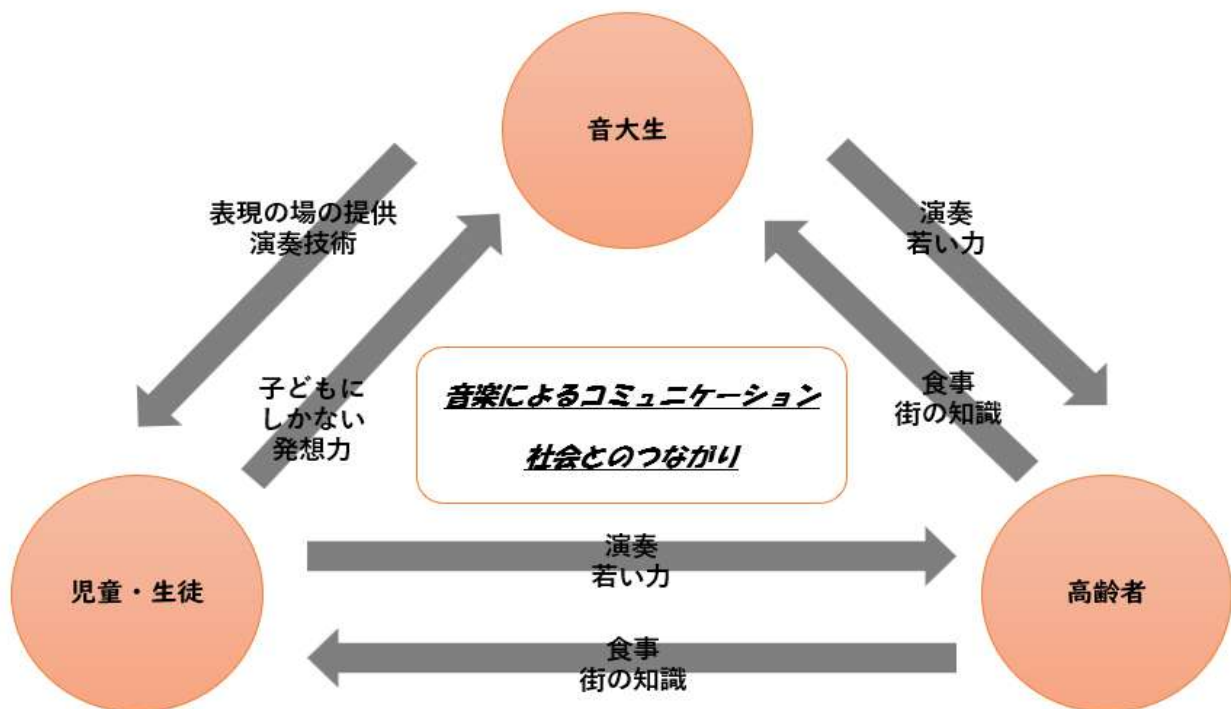
ミュージックコミュニケーション専攻を中心とする大阪音楽大学及び大阪音楽短期大学部の学生で実行していきます。学生にとって地域住民との音楽による対話、コミュニケーションがモチベーションになると考えます。

2. 実現に必要な資源

ヒト：企画・運営についてはミュージックコミュニケーション専攻の学生で行い、演奏については音大生、地域の児童・生徒を募集します。また、この活動を進めるにあたって自治体の協力が必要不可欠だと考えています。

モノ：利用する施設は、楽器の持ち主のご自宅、大阪音楽大学練習室、地域の公園です。また、公園がメディアとして機能するまでの間、各種 SNS（Twitter、Facebook）やチラシ、広報誌で宣伝していくことを想定しています。

カネ：この活動に掛かる費用は、豊中市の助成金を獲得し充てようと考えています。



3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

アイデアの内容の項目に記載されている①～⑤のプログラムを1年に3回程度の頻度で継続して行います。継続していくことによってパブリックスペースである「公園」という場所の価値を高めていく期間にします。最終的には誰でも集まることができる公園で言葉のコミュニケーションのみならず音楽を通じたコミュニケーションができるようになると考えています。

